

「良い脳」に育てよう！②

赤ちゃんが静かにおっぱいを飲んでいる時間は、お母さんにとっては数少ないゆっくり出来る時ですよ。

あいた片手でスマホを構え、SNS をチェックしたり、気になるニュースを見たり、わずかな時間をフルに活用したくなりますよね。

でも、これって脳育てには NG！

赤ちゃんは目の前の人の表情筋の動きを見て、自らの表情筋に伝える事によって発音を獲得し、目の前のお母さんが口を動かしているとそれを模倣し、脳に焼き付け易いのです。

でも、実際にやってみると目と目がなかなか合わせられませんよね。

目を合わせるというより、意識と顔を赤ちゃんに向け、表情豊かに語りかける事が大事です。

赤ちゃんへの話しかけは、たくさんの情報を脳にインプットしているという事。

言葉の意味は分からなくても、相手から伝わってくる息の風圧、筋肉や血液の脈動まで感じとるだけの感受性がすでに有るといわれています。

しかもこの能力が高いのは 3 歳まで！心を通わせる言葉のセンスやコミュニケーション能力の基礎は、3歳までに獲得するものであり、「三つ子の魂、百まで」ということわざは、脳科学としても正しいようです。

お母さんの心臓の音、筋肉の動き、息遣い、あたたかさとともに、伝わってくる言葉。その言葉から脳が受け取る情報はとても大切なものです。